

補装具費支給意見書(下肢装具)

北海道立心身障害者総合相談所

氏名		年齢	歳	市町村名	
原傷病名及び機能障害名	障害原因と機能障害名を記載すること。 (発症年月日) ※障害者総合支援法で定める難病等に該当(□する・□しない)				
障害現症	歩行の状態、装具を装着する部位の関節の可動性、筋力、変形、脚長差等の状態等を記載すること。 難病患者等については、身体症状等の変動状況や日内変動等についても記載すること。 (注:借受けが必要な場合はその理由が明確となるよう記載すること。)				
【 靴 型 装 具 】					
【注意】 プラスチック短下肢装具の上に履く靴型装具の製作は、一般の靴が適合できない場合に限る。 一般の靴が適合できない理由は、製作の理由に具体的に記載すること。					
靴型装具名	1 短 靴 2 チャッカ靴 3 半長靴 4 長 靴				
型 式	1 整形靴 2 特殊靴				
製作方法	障害上等、特に必要な場合に限り、グッドイヤー式・マッケイ式とすること。 1 圧着式 2 グッドイヤー式 3 マッケイ式				
具体的な製作処方	採型採寸区分	障害の状態により、採寸によりがたい場合に限り採型とすること。 1 採型B-() 2 採寸B-()			
	補 正	補 高	全補高数値 cm (1 敷革式 前 cm 後 cm 2 靴底式 前 cm 後 cm)		
		ヒール	1 フレアヒール 2 その他()		
		足 底	1 内側ソールウェッジ(mm) 2 外側ソールウェッジ(mm) 3 その他()		
	そ の 他	1 月型の延長 2 トウボックス補強 3 その他()			
製作の理由	【注意】 プラスチック短下肢装具の上に履く靴型装具の製作では必ず記載のこと。				
【 靴 型 装 具 以 外 の 下 肢 装 具 】					
装 具 名	1 長下肢装具 2 短下肢装具 3 股 装 具 4 膝 装 具 5 足底装具 6 その他()				
型 式	1 両 支 柱 2 スパイラル 3 硬性(支柱付) 4 硬性(支柱なし) 5 軟 性 6 補 高 7 膝サポーター(軟性支柱付) 8 膝サポーター(軟性支柱なし) 9 その他()				
具体的な製作処方	採型採寸区分	障害の状態により、採寸によりがたい場合に限り採型とすること。 1 採型A-() 2 採寸A-()			
	体幹支持部	部 位	1 仙 腸 2 腰 椎 3 その他()		
		種 類	1 モールド 2 骨盤帯(芯あり) 3 骨盤帯(芯なし) 4 その他()		
	股継手	形 式	1 遊動(単軸・多軸) 2 固定(継手なし)		
材 質		1 軽金属 2 鋼 鉄 3 鉄 4 その他()			

具 体 的 な 製 作 方 法	大支持 腿部	種 類	1 半 月 2 カフバンド 3 大腿コルセット 4 熱硬化性樹脂モールド 5 熱可塑性樹脂モールド(座骨支持あり) 6 熱可塑性樹脂モールド(座骨支持なし)
	膝 継 手	形 式	1 遊動(単軸・多軸) 2 固定(継手なし)
		種 類	1 リングロック 2 ダイアルロック 3 全 遊 動 4 ターンバックル 5 その他()
		材 質	1 軽 合 金 2 鋼 鉄 3 鉄 4 プラスチック 5 その他()
	下支持 腿部	種 類	1 半 月 2 カフバンド 3 下腿コルセット 4 熱硬化性樹脂モールド 5 熱可塑性樹脂モールド(P T B 支持等あり) 6 熱可塑性樹脂モールド(P T B 支持等なし)
	足 継 手	形 式	1 遊動(継手あり、含可撓式) 2 固定(継手なし)
		種 類	1 クレンザック 2 ダブルクレンザック 3 全 遊 動 4 制動() 度 5 可 撓 式 6 その他()
		材 質	1 軽 合 金 2 鋼 鉄 3 鉄 4 プラスチック 5 その他()
	足 部	あぶみ	1 足底板(足板) 2 あぶみ 3 その他()
		足 部	1 短 靴 2 チャッカ靴 3 半長靴 4 長 靴 5 標 準 靴 6 皮革(大) 7 皮革(小) 8 熱硬化性樹脂モールド 9 熱可塑性樹脂モールド
補 高		全補高数値 cm (1 敷革式 前 cm 後 cm 2 靴底式 前 cm 後 cm)	
その他の部品		1 T(Y)ストラップ 2 膝当て 3 キャリパー 4 スタビライザー 5 伸展・屈曲補助装置 6 懸垂帯()	
使 用 効 果		具体的に記載すること。 (注:借受けが必要な場合は借受け期間及び効果が明確となるよう記載すること。)	
記 載 年 月 日 令 和 年 月 日			
医 療 機 関 名			
診 療 科			
医 師 名		印	
【 記載上の留意事項 】			
1 選択肢がある場合は、該当する項目に○印を付け、懸垂帯その他()については形式、材質、種類等を具体的に記載すること。			
2 陰性モデルより作成した陽性モデルを使用して作成する場合に限り、採型とすること。			
3 補高については、全補高数値を記載するとともに、形式の()内に敷革式、靴底式ごとの補高数値を記載すること。			
4 制動継手については、制動角度を記載すること。			
5 プラスチック短下肢装具と靴型装具の製作では「製作の理由」が要件を満たさない場合支給できない。			